

## 優秀賞

### 短冊から気づいた絵本の効果

小林 伸太郎

柳田先生、こんにちは。前回お手紙を書いてから、あっという間に一年が経ってしまいました。

初めて子どもが産まれたときから始めた図書館での読み語りのボランティアも五年が経ち、一番上の子は年長になりました。二番目の子は年少、そして六月には三人目が生まれ、仕事に育児に家事に追われる毎日です。でも、絵本の読み語りのボランティアも続けて頑張っています。ほんの少し絵本に当てる時間が、子ども達にとっても自分にとっても栄養になる気がするからです。

実は、うちは家にテレビがありません。私が高

校生の時家族中がテレビに夢中で家族の会話がなく「これって家族ではなく同居人に過ぎないよね」って感じたからです。結婚して妻とテレビは置かないと決めてから八年間テレビとほぼ無縁の生活をしています。その分、育児負担は重いですが家族の会話も多く子ども達に絵本をたくさん読む機会にも恵まれました。一番上のまさひろは自分で本を読むようになり、私が読み語りする機会も減りましたが、それでも歴史や落語の絵本など一人では理解が難しいものは、私が読み語りをしつつ色々な説明をして親子で会話を楽しんでいます。

先日、二年前の絵本大賞で先生からいただいた「コルチャック先生」を歴史の背景を交えながら読み語りをしました。最初は、何でコルチャック先生や子ども達が亡くなったのか分からないよう

でしたが、会話を重ねていくうちに戦争、人権というものが少しずつ見えてきているように感じました。そして、この絵本とともに、毎日読んでいる小学生新聞の記事や曾祖父母から聞く戦争の体験などの影響もあったと思いますが、今年の保育園での七夕の短冊に書いたお願いが「せんそうがなくなりますように」でした。何の誘導もなく自然に出てきた内容なので正直びっくりしました。他の園児が書いた「とりのようにそらをとべますように」、「キュウレンジャーのようにたくましくなりたい」という短冊も子どもらしく素敵だと思いました。息子の短冊はとても光って見えましたが、今回の出来事から、絵本を通して人の想いつて伝わっていくんだな、良いことを一つ伝えられたなと満足しました。

まさひろも来年は小学校に入学します。小学校では、PTAのボランティア活動で読み語りがあります。図書館のお話会では参加者の年齢が低いので読める本が限られますが、小学校では柳田先生からいただいた「コルチャック先生」や「その手に一本の苗木を」もぜひ読んでみたいです。ただ、「コルチャック先生」は読み語りすると私が泣いてしまい、最後がスムーズに読めなくなるのが課題です。このような課題もありますが、時間の許す限り子ども達に読んでいきたいと思っています。そして、これからもたくさんの良い絵本に出会い私自身も楽しんでいきたいと思っています。